

ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

日本医療福祉生協連 近畿ブロック

No.20 2011年5月28日

発行担当 尼崎医療生協・堤

一丸となって復興を目指す

依頼件数

泥かき 6件

床板はがし 3件

庭掃除 5件

引越し 0件



おむつやカップラーメンなどの物資もいただきました

仙台を中心に活躍されているみやぎ生活協同組合が山元町の支援にも協力していただけることになりました。今後、情報交換や不足した物資を譲っていただけたらと思います。また、みやぎ生協さんが行っている避難所でのお茶会は支援の軸となるネットワーク作りにつながると思いますのでこちらでも大いに参考にさせていただきたいと考えています。

仮設を訪問中に移動販売を行っているセブンイレブンの方とお話することができました。代表者の方は、もともと山元町でセブンイレブンのオーナーをされていたそうです。こちらの方とも今後、仮設に住まれている方のニーズを共有していきたいと思えます。

宮城県で動いているボランティアの数は3月からの合計で19万人に達しているそうです。たくさんの団体が復興を目指して頑張られています。これからも様々な団体の方と積極的に情報交換をして、協力体制を築き、手を取り合って支援活動を行っていききたいと思えます。

花釜に物資届く

居住禁止区域であるためになかなか物資が届きづらかった花釜地区に、山元町からの物資を届けることができました。地区のニーズまとめと交渉に尽力してくださった中村さん、こちらの要望を聞いてくださった区長さん、本当にありがとうございます。しかし、まだまだ地域全体に物資が届いている状態ではありません。衣食住を早急に確保するためにますますの頑張りが必要です。

続々と依頼が入ってきています

訪問の際に配らせていただいているビラの効果か、ここ数日少しずつ依頼の電話が増えてきています。他にも地域を巡廻していると「尼崎の病院の車がよく走っているのを見ていた」「いつもご苦労さま」など声をかけてもらえるようになってきました。連日の訪問行動によって少しずつ私たちの活動が認知されてきているようです。

まず、知ってもらうこと。そして、信頼関係を築くこと。

少しずつではありますが、ネットワークが広がってきています。このネットワークを軸に実態を把握し、支援の手を広げていこうと思えます。